

停電時であっても、太陽電池モジュールが発電している時であれば、パワーコンディショナ右側面の自立運転用コンセントから電力を使用することができます。

・必ずパワーコンディショナの取扱説明書をお読みのうえ、安全に注意して操作してください。

※下記に取扱説明書の抜粋を記載します。

・被災時から停電したままの場合、安全が確認できるまでは主幹ブレーカはOFFにしてください。

※主幹ブレーカをONする場合は、所轄の電力会社の指示に従ってください。

※太陽光発電用のブレーカは必ずOFFにしてください。

・自立運転時には、発電した電力は、住宅用分電盤には供給されません。

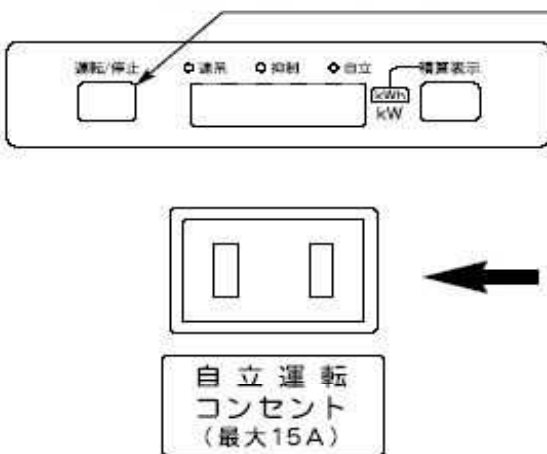
・雨/雪/曇り/夜間/早朝/夕方/日陰等太陽光が充分でない場合は発電できません。また、発電中にこのような状態になった場合には、発電量が低下または停止する場合があります。

・カラーモニターへの発電量・消費量・売電量・買電量の表示はできません。

取扱説明書の 8ページ記載内容

連系運転から自立運転にするには

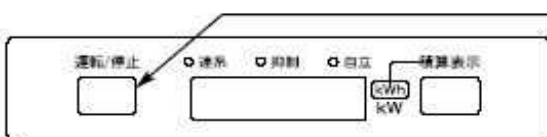
太陽光発電システム専用ブレーカをOFFにすることにより、自立運転に切り換えることができます。自立運転モードでは、自立運転専用コンセントから供給される電力により、電気製品を使用することができます。



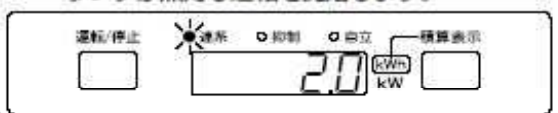
1. **運転/停止** ボタンを押し、運転を停止する
表示が消え、パワーコンディショナは運転を停止します。
2. 家庭用分電盤の太陽光発電システム専用ブレーカをOFFにする
3. **運転/停止** ボタンを押す
表示部の自立ランプが点灯し、連系運転モードから自立運転モードに変更されます。約10秒後に自立運転専用コンセントにAC100Vが出力されます。



自立運転から連系運転にするには



1. **運転/停止** ボタンを押し、運転を停止する
表示が消え、パワーコンディショナは運転を停止します。
2. 家庭用分電盤の太陽光発電システム専用ブレーカをONにする
3. **運転/停止** ボタンを押す
表示部がカウントダウンを開始すると同時に連系ランプが点滅し(約5分間)その後、連系ランプが点灯し運転を開始します。



自立運転時のご注意 (点検コードは10ページ参照)

- くもりや朝夕など太陽電池モジュールの発電量が少ない場合は、使用する電気製品の消費電力によって運転できずに、本体内の保護装置が働く場合があります。保護装置が数回働くと自動的に運転を再開しなくなります。くわしくは、10ページの点検コードをご覧ください。
- 15A以上の電流が流れた場合、本体内の保護装置が働く場合があります。保護装置が数回働くと自動的に運転を再開しなくなります。くわしくは、10ページの点検コードをご覧ください。
- 冷蔵庫のような、連続的に電力の供給が必要な機器には使用できません。
- 最大電力が1,500W以上になる機器には使用できません。
- タコ足配線での使用はおやめください。
- 自立運転コンセントは、15A以下でご使用ください。
- 自立運転していても、電気製品を使用していない場合は、電力表示は0.0kWとなります。
- 太陽電池モジュールが十分に発電している時でも、洗濯機、掃除機など、モータを内蔵している電気製品は、運転開始時に大きな電流が流れるため、使用できない場合があります。
- 自立運転モードで日没となった場合、翌朝は自動的に連系運転モードが選択されます。太陽光発電システム専用ブレーカがOFFであれば **運転/停止** ボタンを押し、「停止」→「運転」にすることで、自立運転を開始します。